

令和5年12月
防衛省

航空自衛隊下甕島分屯基地に関する 令和6年度予算案の主要事業について

【警戒隊の体制移行】

航空自衛隊は全国28か所に防空監視所を配備し、対領空侵犯措置、防空等のほか弾道ミサイル対処等の各種任務に万全を期すため、我が国周辺において24時間態勢により常時継続的な警戒監視を実施しております。

警戒監視の重要性は変わらない一方で、人口減少と少子高齢化の進展により、限られた人材を最大限有効に活用することが求められており、さらに、従来領域に加え、宇宙・サイバー・電磁波領域の態勢整備を加速させる必要があることから、必要な人材の確保が急務となっております。

このような状況を踏まえ、航空警戒管制部隊では、警戒監視体制を維持しつつ、必要な装備品や態勢整備の進捗に応じて体制移行を進めており、警戒管制レーダーの遠隔操作機器材の導入等を踏まえ、令和6年度では各航空警戒管制団の警戒隊の一部要員を省人化（▲約10名）することとしております。

【基地防災施設の整備】

令和6年度予算案においては、下甕島分屯基地における法面保護に必要な調査・設計に係る経費として約0.1億円を計上しています。

この事業を含め、下甕島分屯基地における施設整備に係る経費は、全体で約2億円を計上しています。

【分屯基地の定員】

令和6年度の下甕島分屯基地の定員については、以下のとおりとなる予定です。

令和5年度末	令和6年度末	増▲減
約150名	約150名	▲約10名

※ 四捨五入により合計が一致しない場合があります。